

櫻の子



5月号 (令和6年5月1日)

児童数 535名

川越市立大東東小学校



心に響く希望の詩

校長 山本 敦子

大東東小学校のシンボルである校庭のけやきの木の緑がまぶしい季節になりました。上へ上へと伸び、葉っぱを青々とつけ始め、日に日に大きくなってきているけやきは、私たちみんなにエネルギーをふりそそいでいる気がします。けやきに関する詩を見つけました。5月9日の校長によるお話集会では、詩人 みずかみかずよさんの下記の詩を紹介する予定です。私は子供の頃から、国語が好きでした。感動する物語や心が癒されるような詩に触れることができたからです。子供たちの豊かな心の育成のためにも、たくさんのステキな言葉に出会ってほしいと願っています。

けやき
みずかみ かずよ
てんを ゆびさして
ぐんぐん のびた
おおきな
おおきな
ふんすいだ
ひの におい
みずの におい
つちの におい
かぜの におい
まぶしい におい
けやきの におい
ひかりの
ひかりの
ふんすいだ
てんから ふつてくる
みどりの しぶき

6年生が進級した思いを詩に表現しました。最高学年としての期待やプレッシャーなどが複雑に入り混じり、そんな中でも前向きに頑張ろうとする意気込みが子供たちの詩から感じられました。廊下に掲示してある全員の詩を読ませてもらいましたが、一人一人の個性が表れていて、私は何度も何度も読ませていただきました。そのうちの一人を紹介させていただきます。

卒業するまでの思い出
六年
やっと6年生
ドキドキ ワクワク
他にもいろいろな感情があった
さかのぼると
一年生からここまで
色々なことをがんばった
多くの記憶に思い出が残っている
その思い出全部が楽しい思い出
あと一年しかないけれど
その一年も全力で楽しみ
たくさん行事に向き合い
いろいろな思い出をわすれずに
青空の下で卒業したい

「きっと、さらにいい学校になる!」私たち教職員も希望がわいてくるような詩です。子供たちから毎日元気をもらっています。「笑顔輝くけやきの子」のために、今年度もがんばりますので、保護者、地域のみなさまのご理解ご協力、引き続きよろしく願います。

